

みんな大好き！ 涙道クリニックっ。

●企画にあたって

涙は眼表面を保護し、清潔を保つために不可欠な生理機能であると同時に、感情を表す象徴でもあります。しかし、その涙が常に頬を伝って流れている状況は、患者本人の不快感にとどまりません。周囲の人々も「体調が悪いのではないか」「泣いているのだろうか」と気をとめ、時に心配を寄せることになります。涙道疾患は、症状の軽重を問わず、生活の質や社会的なかわりに直接影響を及ぼす点で、眼科医にとって看過できない領域です。

涙道はきわめて小さな構造ですが、そこに生じうる病態は多岐にわたります。先天異常から加齢性変化、外傷、炎症、さらには腫瘍に至るまで、発症背景は幅広く、診療の現場で遭遇する機会は決して少なくありません。適切な診断と治療を行うためには、基礎的な解剖や生理の理解と、臨床現場での観察や検査の積み重ねが重要です。涙道診療は、専門医だけの特別な分野ではなく、一般の眼科診療においても必須の知識体系であるといえるでしょう。

今回の特集「みんな大好き！涙道クリニックっ。」では、まず涙液排出を支える解剖と生理に立ち返り、臨床的な観察の基盤を整理しました。さらに、涙道内視鏡や鼻内視鏡などの機器の近年の進歩が、診断と外科的治療の水準をどのように変化させたのかを紹介します。

疾患編では、日常的に遭遇する涙点閉塞や鼻涙管閉塞に加え、涙小管炎・涙石症、外傷性断裂、涙嚢腫瘍など、より専門性の高い病態にも触れています。小児領域では先天性鼻涙管閉塞や涙嚢瘤について、自然経過と介入の適切な時期を整理し、日常診療に活用できる指針を示しました。加えて、細隙灯検査や涙管通水検査といった基本的なアプローチを再確認し、一般診療の場での見落としを減らす工夫を提示しています。

涙道の診療は一見すると細部にとどまる分野のように思われがちですが、その実際は臨床の広がりや深さを兼ね備えています。私は涙道を専門とする立場ではありませんが、この分野の第一線で活躍されている兵庫県立尼崎総合医療センターの廣瀬美央先生にゲストエディターとしてご協力いただき、目次構成および執筆者の選定をお願いしました。廣瀬先生のご尽力により、実臨床に即した充実した特集となったことを深く感謝申し上げます。本特集が、日常診療に取り組む先生方の理解を深め、より確実な診断と適切な治療の一助となれば幸いです。

稲谷 大

福井大学医学部眼科学教室